

前月の三、二一二千株に比し四六%の大幅減少を示し又株価指数も三四三・五と前月の三五三・八に比し二・九%の下落を示した。

#### 六、貸銀、雇用

##### (1) 貸銀支払状況

東京都に於る男子工業労働者平均賃金は一三、〇八一円と前月に比較して四四円の減少となつてゐる。之は臨時的給与が四七八円減少したため此の間定期的給与は一三、八五九円と四三四円の増加を示してゐる。この定期的給与の増加は、金属、機械器具、繊維工業等最近活況に転じた業種の就業時間が増加したことによるものである。

##### (2) 企業整備状況

企業整備は本月も更に減少し件数は前月比二三件減じ総数二一五件となり整理人員も八、七一人と前月比三千人近く減少した。これを朝鮮事変発生前の五月に比べれば件数、整理人員共半分以下となつてゐる。規模別にみれば従業員五〇人未満のもの一〇七件(前月比二件増加)、五〇人以上二〇〇人未満のもの六九件(前月比二四件減)、二〇〇人以上のもの三九件(前月比一件減)となり依然五〇人未満の小企業体が半数を占めてゐる。又業種別にみれば整理人員は鉱業、建設工業、製造工業の減少が目立ち反対に商業部門は増加を示してゐる。

##### (3) 求人求職関係

求人、求職、就職の関係を東京都職業紹介調べについてみると求人数二六、五六六人で前月比二、〇九九人増、求職者六四、五四三人で前月比二、一九七人減、就職者一五、七一人で前月比六七人増と順調な様相を示しており、今月は特に紡織、女中等えの女子の就業が目立っている。かく就職関係は次第に快方に向つてゐるとは云うものゝ未だ労働市場の狭隘は打開されていない。

##### (4) 労働争議の状況

労働争議も次第に減少を辿つており、月間総争議は二一五件、参加人員七八一千人で前月比五三件四千人減少してゐる。この内争議行為を伴うものは三八件参加人員二〇千人で前月比一三千人の減少である。月間の作業停止労働争議(同盟罷業と工場閉鎖)は参加人員一一人(前月比一三千人減)その労働損失日数は

六千日で前月比二〇千日減少した。斯くの如く労働争議は次第に減少し、特に労働損失日数は今春の三月の三、八三六千日に比すれば隔世の感がある。

次に労働争議の要求事項別調べをみると前月と同様賃銀手当に関する件が最も多く、次に経営及び人事関係に関する件が多い。

## 昭和二十五年十月

### 国内経済概観

一、財政、金融      二、通 貨      三、生 産  
四、貿 易      五、商 況      六、貸銀、雇用

#### 一、財政、金融

##### (1) 財政資金対民間収支

当月の財政資金の収支尻は三四、七〇五百万円の支払超過で今年度に入つて最初の大規模超額となつたが(前月は受超八、七四二百万円)、之は供米期に入つた食糧管理会計の支払膨脹と引続く外国為替会計の支払増加によるものである。

##### (2) 一般会計の対民間収支

租税収入は前月と大差なく予算進捗率も四四・三%で前年(四四・二%)と略々同程度である。専売流用現金が当月の葉煙草収買盛況を反映して対前月比一、三五四百万円を減少し、支出面で公共事業費支出が下半期事業計画認証の遅延によつて伸縮み対前月比三、〇八五百万円を下廻つた外は、前月に比べて動きに乏しい。

##### (3) 主要特別会計

食糧管理関係受払は対民間現金勘定で受入一、八九三百万円、支払五一、三三二百万円を示し、受入は略々前月と変わらないが、支払は三五、三八一百万円を急

増した。今年産米は作柄も早く、月中供出高は、六、七三六千石に及んで農林中央金庫に対し買入代金四六、九〇〇百万円(前年同月四二、〇〇〇百万円)を前渡し農林中央金庫以外に対する支出を算入すると買入代金支出は概算四八、六〇〇百万円に達した。一方預金部公団勘定より振替えられた食糧払下収入を加えた総収入は約二八、三〇〇百万円で例月より若干上廻るが差引支払資金不足は食糧証券発行一三、〇〇〇百万円、国庫余裕金繰替使用一三、〇〇〇百万円を以て補填された。政府当座預金の余裕により繰替使用が可能となった為、食糧証券発行増加額は昨年同月よりも一四、〇〇〇百万円下廻っている。

外国為替会計は対民間において受一四、五六四百万円(前月比四、〇三四百万円増)払四三、六七二百万円(前月比二二、二四九百万円増)と受払とも更に増大したが、特に支払高の膨脹はいちじるしい。これは輸出為替の買取が引続き増嵩していることに加え前月颱風禍による輸出貨資船積遅延分の当月への繰越があつたこと並に占領軍関係に対する円貨支払が増加したこと等の事情によるものと思われる。一方前月開始した外貨貸付制度により本会計は日本銀行に対し当月中四三、二四〇百万円(受四三、七二二百万円、払四八二百万円)の外貨を売却して代り円資金を受入れたので、一四、〇〇〇百万円に近い余裕を剩し差当り本会計の円資金不足問題は解決するに至つた。なお借入関係では、日銀一時借入金残八、〇〇〇百万円を国庫余裕金繰替使用八、〇〇〇百万円に乘換えたに止つた。

なお貿易会計は当月中貿易資金証券発行残高を四、〇〇〇百万円減少し、国庫余裕金繰替使用額も一、〇〇〇百万円減少したので一時借入金限度に対して再び若干の余裕を回復した。

#### (4) 見返資金

援助物資処理会計よりの本資金への繰入は当月中は手続上の関係から行われなかつた。しかし当月中民間投資は前月より稍活況を呈し、三、一六八百万円(前月比一、二一九百万円増)に達し外に政府関係払出一、六六二百万円等があつたので、短期証券、日銀預金併せた余裕金は前月比四、六一六百万円を減少し五八、四七〇百万円となつた。なお対民間産業投融資額は、船舶関係一、二六一百万円、石炭鉱業七〇〇百万円、鉄鋼業三三〇百万円、中小企業関係七二百万円の

外農林漁業関係へ本年度としての初投資二四三百万円が行われ、総計二、五九六百万円と例月をかなり上廻る伸長を示した。

#### (5) 預金部

預金部においては、郵便貯金が朝鮮動乱勃発後の増勢不振に加え地方税徴収の影響を受けて、月中増加は僅か五五八百万円と不振を極めたため、簡保年金及び厚生保険預金が例月並の増加を示したに拘らず、原資の増加は一、四七九百万円に止まつた。しかし運用面において貸付金が公団に対する分を中心として三、一七三百万円減少したことを主因として、差引余裕金は三、七二七百万円増加し、その月末残高は四五、〇六六百万円(内三三、四〇〇百万円は短期債、九、九六八百万円は使途を限定しない市中金融機関への預け金、一、六九八百万円は日本銀行に対する当座預金)に達した。なお預金部の対民間受払のみについてみれば、月中二四、二七二百万円の引揚超過となつたが、これは主として公団預金の面において約二六、〇〇〇百万円の引揚超過となつたためである。

#### (6) 復興金融金庫

復興金融金庫の当月中の貸出回収は五一二百万円(一般産業分のみ)保証融資の肩代りは七四百万円で、差引貸出残高は四三七百万円減少した。

#### (7) 全国銀行預金貸出及び日本銀行の全国銀行に対する信用供与

全国銀行貸出増加は月中一九、五七二百万円に止まり、前月の増加額に比し三、九六五百万円減少し、また前年同月中の増加額に比しても五、六九九百万円減少した。これは主として政府資金の大幅な支払超過に応じて市中銀行が貸出回収の促進を図つたためである。即ち十月中の全国銀行の新規貸出(当座貸越及び切換継続分を含まない)は三一九、八五〇百万円と九月中に比し一〇、八四九百万円増加したに拘らず、回収額は三〇一、二九四百万円と著しく伸長し、前月中に比し一六、七六五百万円上廻つた。また新規貸出額を設備資金及び運転資金に分つて見るに、設備資金の新規貸出額は九、四八八百万円と前月に比し一、一六八百万円減少したが、運転資金の新規貸出額は三一〇、三五九百万円と前月に比し約一二、〇〇〇百万円増加した。運転資金の増加は主として卸売部門への貸出が約一三、〇〇〇百万円増加したためであり、とくにそのうち繊維品卸売業者に

対する貸出が七、三〇〇百万円増加していることが注目される。一方全国銀行総預金は、前月末の粉飾が取外されたため、月中二五、二四三百万円減少した。また同業者預金及び政府関係預金を除く預金も月中二六、四二六百万円減少しているが、この間銀行手持手形、小切手が四四、一七四百万円減少していることを考慮すれば、預金は実質的には一八、〇〇〇百万円程度増加したものと推定され、預金情勢は前月の不振を挽回した。これは主として政府資金の対民間収支が支払超過に転じたこと、公団預金の預金部への引揚額が前月に比し減少したことなどによるものである。

右の如く全国銀行勘定においては、貸出の増加は実質預金の増加を若干上廻つたが、コール資金の取入もあり、日本銀行の市中銀行に対する貸出は月中一、五二七百万円減少した。なお日本銀行の市中金融機関からの長期国債買入は月中二、三三四百万円(内銀行一、一九四百万円)行われた。

#### (8) 農業系統預金

農業協同組合貯金は、供米の本格化に伴い月中一五、〇二〇百万円とは、前年同月並の増加を示した。なお農林中央金庫は供米代金概算金受入額が支払額を一六、五〇〇百万円上廻つた外、預金の増加、農業手形の回収などによつて手許は著しく潤沢化し、日本銀行からの借入金を一、九二七百万円返済した以外に、市中銀行割引手形の再割引九、七〇〇百万円、コール資金放出三、六〇〇百万円などを行った。

#### (9) コール市場

農林中央金庫の余裕金の放出は、大銀行筋の日本銀行借入金返済要資を賄い、市場の出入は円滑で、無条件物中心レートは通月、前月末の日歩一銭八厘五毛を維持した。

#### (10) 証券発行市場

本月中の株式払込高は三、四四三百万円と最近の不振を相当挽回し、年初各月の水準に復帰したが、なお前年同月に比しては著しく低位に止まつた。

一方起債市場においては、月中事業債の発行高は五、〇二五百万円と前月に比し三四〇百万円増加したが、そのうち一七〇百万円は引受証券業者の背負い込み

となり、また金融債の発行高も計画の四、〇〇〇百万円に対し実績は三、三五六百万円に止まつた。前月来の発行証券消化難は、金融機関保有国債の償還が中止され、また日本銀行の長期国債買入額が削減されている現状において、証券発行計画が過大なためである。

#### (11) 日本銀行の信用政策上の新措置

第一に臨時金利調整法による金融機関の貸出金利最高限度中、日本銀行再割引適格貿易手形割引利率を日歩二銭(二厘引下)、日本銀行再割引適格商業手形割引利率中一件の金額が三百万円をこえるもの日歩二銭二厘、同三百万円以下のもの日歩二銭三厘(いずれも一厘引下)と変更することに決定した(実施は十一月十日から)。第二に先月制定した外国為替貸付制度につき、その適用溯及期間が当初九月十八日以降とされていたものを八月二十八日以降に変更し、また遠隔地からの輸入についての貸付期間を当初原則として九十日以内となつていたものを百二十日以内とするなど輸入金融促進のため所要の措置を講じた。

#### (12) 九月末全国銀行使途別業種別貸出残高

九月末の全国銀行貸出残高を設備資金と運転資金に分つて見るに、総額中設備資金の占める割合は九・三%と本年三月末の七・七%及び昨年九月末の七・一%に比し相当上昇している。これは市中銀行を通じて企業設備合理化資金、増経資金などが賄われたことを示すものである。次に運転資金貸出残高を業種別に見ると、とくに注目される点は卸売及び小売業に対する貸出の総貸出残高中に占める割合が二六・七%と本年三月末の二三・四%及び昨年九月末の二〇・〇%に比し著しく増加していることである。これは主として取引機構の改廃、生産及び輸出の増大によるものであるが、なお朝鮮動乱後の新情勢下において流通面に値上り待ちのストック保蔵資金が流出したことを看過できない。

#### 二、通 貨

##### (1) 日本銀行券の動き

市中金融機関の期末関係手許切詰の反動と早場米地方に於ける供米代金支払進捗に因り上中旬を通じ日本銀行券の発行超過額は二四百万円と著しい回帰不振状態を示した。而も下旬に入るや官民諸給与の支払等恒例の月末関係現金需要も

あり増勢は著しく、旬中一五、六九四百万円の発行超過を示し月末発行高は三四四、六八九百万円と本年の最高であつた一月四日の三四八、四四四百万円に迫る残高を記録すると共に月中増加高一五、九〇八百万円も年初来の最高であつた。なお月中平均発行高も三三二、七三〇百万円と前月に比し一〇、八六五百万円の大幅増加を示した。

## (2) 日本銀行券の増減要因

当月中に於ける日本銀行券の動きを財政金融の各部面より総括してみると先ず財政資金は食糧収買前渡金の支払が多額に達した上、輸出並びに特需の好調により外国為替買取代金の支払が大幅に進捗したのを主因に三四、七〇五百万円の撒布超過を示した(内見返資金は三、〇八一百万円の撒布超過)。従つて預金部資金の引揚超過一、二七三百万円を差引き結局政府関係に於て三三、四三二百万円の撒布超過となつた。一方日本銀行の貸出は前記政府支払の進捗に伴う農林中央金庫よりの返金を中心に一四、二四二百万円と大幅の減少を示し、市中国債債券の買入超過一、九九二百万円を差引き日本銀行の対市中信用は一、二五〇百万円の減少となつた。

## (3) 預金通貨の動き

当月に於ける預金通貨の動きをみると全国銀行一般当座預金(同業者預金及び公金預金を除く)は二〇八、八六六百万円と前月に比し三〇、七八四百万円の減少を示しているが、銀行手持小切手、手形が前月末の粉飾の爲、四四、一七四百万円と大幅に減少している故、之を考慮すれば実質的には寧ろ増加しているものと推定される。又全国手形交換高も九五二、六六六百万円と、前月に比し一〇四、二九五百万円の大幅増加を示しており、右の預金粉飾取外しによる交換高の増加を考慮しても相当の増加と認められる。従つて当月の預金通貨は荷動きの活潑化並に物価上昇を映じて可成り増加したものと推定される。

## 三、生産

### (1) 動力事情

出炭はいよいよ好調を示し、前月に比し一二九千トンの増産で総出炭量は三、三三七千トンと二十四年三月以来の最高を記録した。また労務者一人当りの採炭

も九・二トンと前月(八・九トン)を更に上廻つて戦後最高の成績であつた。一方月中荷渡実績も、三、三五七千トン(前月比一八六千トンの増加)と本年二月に次いだこれは冬の需要最盛期を目先に控えて、鉄鋼、セメント、肥料等産業用の外特に電力、ガス、暖房向の需要が多かつたためである。石炭輸送に対する貨車繰りは依然窮屈ながら、市況の活潑化を映じて貯炭は坑所、港頭、市場いずれも減少し月末総貯炭量は三、九四〇千トン(前月末より一六千トンの減少)と五ヶ月ぶりに四百万トン台を割つた。

次に電力についてみれば、水力発電がやゝ持ち直し(当月発電量二、九三三万キロワット時、前月比増一九三三万キロワット時)、加うるに火力設備のフル稼働によつて火力発電量が著増(前月比二二七万キロワット時増加、増加率にして八三%)をみせたため、総発電量は三、三九八万キロワット時に達し戦後の最高記録を示した。従つて各産業とも電力に恵まれ、当月の工業生産上伸の有力な素因となつた。

### (2) 工業生産

鉄鋼の生産は八幡はじめ高炉の好調を中心にひきつづき上昇傾向を堅持し、銑鉄一八八千トン(前月一七〇千トン)、普通鋼々材三一八千トン(前月二六七千トン)といずれもいぢるしい増産を示し、これまた戦後最高の好成績を挙げた。

その他主要物資の生産状況は、化学肥料が硫酸一三二千トン、過磷酸石灰一八千トン、石灰窒素四一十千トンと八月、九月の不振から漸く立ち直つて、公団廃止前の水準に一步接近した。茲許好調のセメントは輸出進捗、内需旺盛に更に動力供給の好転もあつて顕著な躍進振りを見せ、前月の戦後最高四一九千トンを遙かに凌駕して五二三千トンと右記録を更新した。また機械工業も、特需向を中心としてひきつづき活潑な生産活動をつづけ、車輛、トラック、船舶等が目立つて伸びた。

次に繊維工業についてみるに、いよいよ実需期に入り、旁々災害工場の立ち直りも手つだつて、糸、織物とも一―二割の生産増加となり綿糸五二、二二三千ボンド、綿布一四〇、四五三平方ヤードといずれも前月の生産高を更に上廻る好調であつた。なお月中の原棉輸入は政府、民間併せて一三八千俵で九月の一七五

千俵には及ばなかつたものの、一応順調な入着を見せているが当月中旬米国政府の棉花輸出制限措置が発表され今後の輸入減少が懸念されている。生糸は一五、七五九俵と前月に比べわずかながら減産を示した。

### (3) 工業活動指数

当月の生産状況を総司令部経済科学局調の工業活動指数によつてみるに、総合指数は二二・四と前月より八・九%増加する飛躍的上昇を示した。すなわち、公益事業(電気・ガス)指数は、電力の記録的増進により、一九三・七と前月より一〇%増加し、また鉱工業生産指数においては一〇六・三(前月比七・五%増)とついに戦前の水準を突破するに至つた。鉱工業生産指数の内訳は、鉱業は石炭、原油等の増産により前月より二・七%の上昇で一一五・二を示し、製造工業亦非耐久財生産が化学工業、繊維工業の順調に反し、食料品工業の不振のため二・八%の微増に止まつたといふものの耐久財生産においては金属工業、機械工業及び窯業の上昇によつて一一・九%著増したため、結局一〇五・三と前月より八・一%の大幅増加をみるこゝとなつた。総じて当月は、各生産部門とも頗る活気を示し戦後最高の生産実績を挙げたものが多かつたが、これは輸出の順調、特需の刺激もさることながら動力供給の好調が大きく作用したことは見逃せない。

### (4) 食糧事情

本年産米は当初の豊作予想に反しジェーン、キジア両颱風のため作況若干悪化し当月の農林省発表によれば六二、八七五千石と事前生産割当の六三、二八一千石には及ばず、昨年産米の推定実収高を稍々(〇・五%)上廻る程度で略々平年作と推定されている。然し本年は例年に比して成熟が早かつたこと、農家の資金事情とから供出の出足が早く当月の供出量は六、七三六千石、月末累計八、二三七千石と事前割当三二、三四二千石に対して二五・五%を示し前年同月末の六、七〇六千石、進捗率二二・四%に比して相当優つてゐる。なお本年は検査が厳重なため四等米が極めて多く、これは農家の供米代金収入に少なからぬ影響を与えることゝなるう。麦の供出は月中供出高五一五千石、月末累計八、一五三千石(内代替供出二八三千石)進捗率九八・三%と未だ一〇〇%を突破しない。

当月の輸入食糧の放出許可は穀物で一八三千噸(八・三日分)米が五〇千噸で

身替貯蔵米が三千噸放出され月中の食糧配給割合は内地米四七・七%、外国輸入米七・三%、内地産麦二五・七%、輸入小麦一九・四%となつてゐる。即ち月中の米食率は五五%に上り(昨年同月五一%、一昨年同月三四%)食糧事情は順調に推移した。

次に当月を以て終つた昭和二十五米穀年度の食糧需給実績をみるに前年度からの持越量は一七、二六七千石(玄米換算以下同じ)であつたが、年度中国内産食糧四四、六七三千石、輸入食糧一六、三五三千石、合計六一、〇二六千石を買上げ、之に対して需要は五九、二九三千石と買入量を下廻り結局次年度への持越量は前年度からの持越量より一、七三三千石増の一九、〇〇〇千石となつてゐる。然し年度中供給量の輸入食糧が約二七%を占めている事は注目しなければならない。

### 四、貿易

#### (1) 輸出入実績

大蔵省調速報によれば十月の輸出実績は三一、六四三百万円(約八八百万ドル)で九月の戦後最高記録を更に五、〇一三百万円(一八・八%)上廻つた。これを品目別にみると、七月以降増加の一途を辿つてゐた繊維品が当月に至り一三、二二二百万円と微減(三%減)したが、機械、機器類はタイ国向車輛、パナマ、フィリッピン向船舶の輸出増加により五、一六八百万円と前月の三倍強に著増しておりその他の品目も概ね増加している。

一方輸入実績は、二五、九七九百万円(約七二百万ドル)を示している。当月分より速報集計方法が変更されたため正確な比較はなし難いが当月の輸入総額は前月より増加している模様で特に繊維原料品(一一、五八八百万円)原皮、鉱石等は何れも好調な回着をみている。然しこの輸入の増加も輸出の増加に比すれば遙かに少く貿易収支の出超傾向は更に強まつてゐる。

#### (2) 輸出申告書認証高実績

前月六六百万ドルと七〇百万ドルを割つた輸出認証高は十月に入つて好転し月中七八百万ドルと前月比一二百万ドルの増加を示し終戦後の最高記録を樹立、年初来の認証高累計は六億ドルを突破するに至つた。

これを通貨圏別にみればオープン地域は二七・三百万ドルと前月比九・七百万ドルの増加を示し、またスターリング地域も二〇・七百万ドルと前月に比べ四・四百万ドルの増加となつているに對しドル地域は三〇・四百万ドルと二・二百万ドルの減少を示している。オープン地域の増加はアルゼンチン、香港、仏連合等に対する輸出増加と台湾、韓国(両者合計約三百万ドル)がオープン勘定地域に繰入れられたことに起因しており、又スターリング地域の増加は前月の減少からの立直りをするものであるがその総額に占める割合はなお二六%に止まつている。なおドル地域の減少は前記の如く台湾、朝鮮が当月からオープン地域に移されたため実質的には殆んど増減がない。

商品別では鉄鋼及繊維の増加が著しい。即ち鉄鋼は中共、香港、アルゼンチン向等の伸長により一四百万ドルと前月比六・八百万ドルの大幅増加を示し繊維もパキスタン、インドネシア向等増大し、二九・九百万ドルと前月比四・三百万ドルの増加となつている。その他の商品は雑貨、非鉄金属製品の増加が稍々目立つ程度で前月と大差がない。

### (3) 特 需

当月の特需発註高は二四・四百万ドルと前月比一八百万ドルの著減をみているがこれは主として役務の減少(一四・五百万ドル減)に基くものである。朝鮮動乱以来の商品関係の内容は機械類(トラック鉄道貨車、乾電池等)が依然多く全体の三八%を占め、金属及び金属製品、木材等がこれに次いでいる。なお特需代金支払高は当月一三・九百万ドルと前月より増加しているが当月末迄の支払高累計(二九・四百万ドル)の発註高に対する比率は二二%に過ぎず本格的支払は来月以降に行われるものとみられる。

### (4) 十一月外貨為替算の決定

当月十三日十一月外貨為替算が決定された。これによると受取勘定三一五百万ドル(輸出代金二一五百万ドル、貿易外受取一〇〇百万ドル)支払勘定四一五百万ドル(輸入代金三八五百万ドル、貿易外支払二九百万ドル)で差引一〇〇百万ドルの支払超過となつている。なお貿易外受取一〇〇百万ドルの中には特需によるドル収入七〇百万ドル以上が見込まれている。

今回の外貨為替算の特徴は、(1)若干の商品の輸入につき品目別に現実に外貨の支払の行われる時期別の金額を計画化し外貨資金の効率的運用を図ると共に、期近物のほか長期先物契約予算を計上したこと、(2)自動承認制の適用品目をこれまでの六五品目から一一五品目に拡大したこと等、国際市場が売手市場となつている現状から輸入制限を大幅に緩和して原材料の確保を計らんとしている点にある。

### 五、商 況

朝鮮動乱以来好調の波に乗つた商況は、当月に於ても引続き相当活潑な動きをみせている。而して最近の思惑買は一般にその勢が衰えをみせてはいるが輸出及特需の増加見透しのある商品には原料の手当とも絡んで需給不円滑を見越した思惑人氣はなお消え去らず価格も強調を辿つている。小売筋は季節的需期に入り且つ価格も先行き引下りの見透しなく、前月頃まで控えられていた一般購買力が秋冬物買入を機に動き始めた感があり百貨店一般商店共衣料品中心に売行は活潑となつている。

#### (1) 商品の売行

先ず消費財について云えば当月に入り秋冷加わるとともに生活必要上の季節的需要を中心に売行は全般的に伸張をみせ就中衣料品(肌着、裏毛シャツ、ズボン、夜具地、純毛品等)は急伸し家庭用品も比較的良好な売行を示した。全国百貨店の売上高についてみても前月に比し衣料品が七〇%の著増をみせた外雑貨二二%、家庭用品三二%、食料品一七%と夫々軒並増加し総売上高六、六四九百万円と前月を二、〇七〇百万円(四五%)上廻る好況を呈した。

一方生産財の売行は前月に引続き内需外需共に活潑で一部には品不足がみられている。即ち鋼材は特需向として引続き車輛、自動車、橋梁、有刺鉄線、釘、ドラム等のメーカーからの需要は相当活潑であり又地方税納入に伴つて地方官庁筋の土木事業にも荷動きがみられ一部の鋼材(高級仕上鋼板、珪素鋼板等)においては品不足が告げられている。尚当月末鉄鋼類十品目の輸出を要許可品目に追加するよう要求せられたが、商況には未だ具体的変化が表われるに至らなかつた。非鉄金属は戦略物資として海外からの引合は益々旺盛となつているが、輸出の増大に



よつて、内需圧迫の懼が生じてきたため、メーカーは、自主的に輸出を停止して主要得意工場へ、紐付き荷渡の実施を行つてゐる。そのため、市中一般への売物は殆んどなく、内需確保のために、原鉱石の輸入等による増産が計画されている。セメントは国内需要順調のほか、輸出も欧米の消費量増大に伴つて海外への日本品の進出増加し、荷動き活潑であつた。石炭は季節的な需要期に入つて省納炭を初め、工業炭、暖房炭の冬場最盛期を控え、荷動きは活潑となり生産の増加にも拘らず貯炭量は減少を辿つてゐる。

## (2) 商品価格の動き

次に商品価格をみるに思惑筋の動きは減退模様乍ら輸出の好調と引続く特需の影響のほか国内に於ける季節的な需要が増加しているためデリ高歩調を辿つてゐるものが多い。即ち消費財に於ては原糸類の価格は、綿糸は輸出の引合旺盛と㊦改訂の予想もあつて騰貴を示し、スフ糸、人絹糸も輸出の好調から麻糸は特需による品薄から微騰し、又生糸は、先行き品薄見込と海外の需要増加期待から続騰を示した。たゞ梳毛糸は冬物製品生産の服から上旬を高値にやゝ低落をみせてゐる。織物類では人絹織物、絹織物、毛織物は季節的な需要増加により全般的に微騰し、綿布は公団手持品と輸出キヤンセル物の放出により漸く保合つてゐるが先行き強気である。ゴム製品については長靴、地下足袋は季節的需要期にも拘らず品豊富から価格は保合であつたがトラクタイヤチューブは特需、輸出の好調により騰貴している。又洋紙は㊦改訂予想から強気配であつた。

生産財では鋼材価格はその騰貴率稍々鈍化乍ら需給事情を反映し全般的に引続き昂騰をみせ、たゞ薄板〇・二九耗は動乱以来の価格の行過ぎもあつて当月は前月より下落をみせた。非鉄金属は、メーカーの自主的な輸出停止により、内需向の出廻増が期待され思惑は減退するに至り電気銅、銅線屑、上故銅、亜鉛は僅かな下落をみせたが絶対量の不足である電気鉛は微騰し、輸入皆無の錫、ニッケルは引続き騰貴した。又セメントは内外需要増加から騰貴し、石炭も冬場需要期に入り強含みとなつてゐる。

## (3) 物価指数の動き

東京卸売物価指数（公定価格あるものはそれにより、これなきものは自由価格

により作成）は引続き騰貴し、前月を僅かながら上廻る騰貴率（三・四％）を示した。これを品目別に見れば朝鮮事変勃発以降大幅騰貴を続けた金属類が当月に入つてかなりその騰勢に鈍化をみせた反面、燃料建築材料の値上りが目立つに至つてゐる。即ち金属類は鉄鋼一次製品の値上りが、第六次造船の資金問題未決定等による大手筋需要の減退、及び一部業者の換金のための処分急ぎ等の事情を反映して著しく鈍化した外、一般的にも落着いた感じを示している。燃料、建築材料は季節的な需要期に入つたことに、素材高及び輸送難等による供給面よりの事情も加つて、大幅騰貴を示すに至つてゐる。なお繊維品は毛糸、毛織物が原毛事情の悪化及び需要増加によつて昂騰をみた外は、強含み乍ら前月に引続き一服気味であつた。

一方東京小売物価指数（作成方法は卸売物価指数に同じ）は、燃料、燈火は需要期に入つて騰貴率にかなり著しいものがあつたが、食料品等が野菜類等の出廻り順調に僅かな下落をみ、繊維品が保合の状態にあつたため、総指数に於て〇・五％の微騰に止まつた。

闇及自由物価に於ては生産財が五・六％騰貴と当月は従来の騰貴傾向からみれば稍々鈍化の傾向にあるが、依然金属類が堅調を持續していること及び肥料が秋肥の引合活潑に著騰をみたことの外殆ど全品目にわたつて強含み状態にあることは注目される。消費財は前月低落のあとをうけ繊維品が保合、主食品が低落を示した外は需要期に入つた燃料及び原材料の値上りのあつた調味品がかなり大幅に騰貴したため、再び一・四％と反騰している。

## (4) 工場在庫高の動き

次に重要物資の月末工場在庫高をみるに消費財では繊維品は毛織物、人絹織物が共に減少しているがこれは季節的な荷動きの活況と毛織物は特需、人絹織物は輸出の旺盛に依るものである。絹織物は生産の好調に対し輸出が稍々低下したために、又綿織物は㊦改訂待ちから工場在庫は微増した。電球、板ガラスは生産増強から共に増加したが、一般洋紙は生産の微減と季節的需要から減少した。生産財に於ては産業界の活潑化から、一般に減少傾向を辿つてゐるものが多い。即ち石炭、コークス、セメント等は生産の増加に拘らず季節的な需要期に入つて減

少、電気銅、亜鉛も又増産以上の需要があつて減少を示した。然し普通鋼々材は、生産の好調と先高見越の売惜みも幾分あつて前月より増加をみせた。

# (5) 輸送実績

当月の国鉄貨物輸送実績は、石炭、セメント、肥料、米、麦等、重要物資の輸送が目立ち、総計一一、八八四トンと前月を一、〇八九トン方上廻る実績を示した。然し朝鮮動乱に伴う一般的な荷動き活潑化と特殊輸送の増加により輸送実績の上昇に拘らず月末駅頭滞貨は一、四六七トンと前月末より更に五三九トン増加し輸送不円滑が唱えられる気配が強くなつた。海上輸送は、国内の産業界の活潑化に伴う荷動き増嵩と陸上輸送の不円滑から海上輸送への移行があつて、内航輸送実績は総計一、五五二トンと前月を三三八トン上廻る増加振を示し、外航輸送に於てもフィリッピン、北米、印度等への進出があつて、輸送実績総計二二四トンと前月より一三三トン増加した。右を反映して、海上運賃は強含みであり繋船も月末一二五隻、三一九千重量トンと前月末に比し四五隻、二二六千重量トンの減少をみた。

# (6) 株式市況

更月後の市況は前月末証券業者の決算関係から一時的に釣上げられた相場の反動から全般に弱保合となり、その後国連軍の三八度線突破、米国の棉花輸出制限措置等好悪の材料交錯して部分的には一進一退を示したが一般に商内不活潑に終始した。これを東京証券取引所における出来高並に株価指数についてみると一日平均出来高は一、六五七千株と前月比七一千株の減少となり、株価指数は三七・三と前月比四・七%の低落となつた。

# 六、賃銀、雇用

## (1) 賃銀支払状況

東京都に於る男子工業労働者平均賃銀は一三、一九九円と前月に比較して一一八円の増加となつてゐる。之は定期的給与及び臨時的給与が夫々三七円、八一円を増加したためで、増加した業種としては金属工業、紡績工業、製材木製品工業

等が挙げられる。

## (2) 企業整備状況

当月の企業整備は総数一五九件、整理人員六、二三人と前月より更に三割近くも減少し朝鮮事変発生前の五月に比すれば約三分の一となつてゐる。これを規模別にみれば従業員二〇〇人以上のもの三二件(前月比八件減)、五〇人以上二〇〇人未満のもの五〇件(前月比一九件減)、四九人以下のもの七七件(前月比三〇件減)と一様に減じ、又業種別では製造工業、建設工業、商業の減少が目立つてゐる。

## (3) 求人求職関係

求人、求職、就職の関係を東京都職業紹介調べについてみると求人数は二三・五千人と特需関係の減退により前月比三千人減少し、又求職者は六一千人で前月比三・五千人減少してゐる。而して就職者は一六・一千人と引続き微増(前月比〇・六千人増)を示しているがこれは低賃銀を買われた女子の商店方面への就職増加によるもので男子の就職はむしろ減少してゐる。

## (4) 労働争議の状況

当月の労働争議は二一四件と前月と殆ど異ならないが(尤も参加人員は専売公社の大口争議が含まれてゐるため増加してゐる)この内争議行為を伴うものは五一件で前月比一三件増加し、労働損失日数も七八千日で前月比一七千日増加してゐる。而して労働争議の要求事項別調べをみると従来主位を占めて来た賃銀手当に関する件が減少し、レッドパーズ反対を含む解雇反対が筆頭に來てゐることが目立ち前記争議行為の増加もこれに原因してゐる。